



## 特集 子どもが読むはじめての文学

文字を獲得することは、生きている世界を認識することであり、新しい世界を創造していくことだ。

文字を覚えたばかりの子どもたちは、書物と出会い、どんな世界を紡ぎ出すのだろう。

今号の特集は、〈子どもが読むはじめての文学〉。

「幼年文学」という用語は、児童文学界にのみ通用する呼称である。

文字を理解した就学前後の子どもたちに長い間読み継がれている書物がある一方、なかなか今の子どもたちにフィットする書物が少ないという指摘もある。そうした状況をうち破るべく、今回の特集を組んだ。

用語の問題を含めて、改めて〈子どもが読むはじめての文学〉について考えてみたい。

